

「海洋国日本」を理解し災害対応のあり方を再考する

砂田 本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。専門とする領域について思いのたけをお話いただければ幸いです。さっそく始めさせていただきます。

海洋国日本になぜ病院船がないのか。災害時に陸路だけに頼る発想から脱却できないのは何故か。私には疑問だらけなのです。

まず前段として「海洋国」ということについて話しておきたいと思います。海洋国とは何かという定義は大切なところとして抑える必要があります。必ずしも島が多数あるという、漠然とした一般的な捉え方、島国や半島といった地理的な条件だけで海洋国家と定義されているわけではないのです。

コラム・海洋国とは

海洋国家 (Maritime nation) とは、大陸国家に対する地政学的概念で、国土全体

あるいは大部分が海に囲まれている国家、あるいは海との関わり合いの大きい国家のことをいう。大辞林では、「かいようこく【海洋国】…国土の全体、または大部分が海にかこまれている国」とされているが、自然条件だけではない。さらにわかりやすく言えば、大航海時代以降に、飛躍的成長を遂げたポルトガル海上帝国やオランダ海上帝国などが栄えた歴史が鏡である。たとえば、近代以降においては無敵艦隊を率いるスペイン帝国、バルチック艦隊を率いるロシア帝国などの多くの強力な海軍国があった。そのなかで七つの海を制する国となった大英帝国は勢力均衡と植民地拡大による世界戦略を展開し、一九世紀に世界屈指の海洋帝国へと成長し、まさに制海権を手中にすることで世界に植民地を開き、インドに東インド会社を設立、アジア進出の拠点とすることによって軍事・通商・輸送ネットワークを拡大した歴史的背景も海洋国を定義づける重要なファクターだと言える。

海洋覇権でASEAN周辺国を脅かす中国は決して海洋国家ではない。海洋国家という概念は、地政学において重要視されてきた。Wikipedia (日本語)、『とくに軍人であり戦略研究者であったアルフレッド・セイヤー・マハンが一八九〇年に発表